「直島会議 2025」を 9 月 7 日（日）に再開

アピナン・ポーサヤーナン（バンコク・アート・ビエンナーレ最高責任者兼芸術監督）、
スハーニャ・ラフェル（M＋館長）らをゲストに迎え、
アジアの現代アートシーンの変遷や、直島新美術館発足の歴史的背景や可能性等について
国際的視点から語り合います。

左からアピナン・ポーサヤーナン（Photo: THE MOMENTUM）、スハーニャ・ラフェル（Photo: Winnie Yeung @ Visual Voices Courtesy of M+, Hong Kong）、三木あき子、帆足亜紀

2025 年 5 月 31 日（土）に開館した直島新美術館（館長：三木あき子）ではこの度、1992 年から直島で開催していた美術と建築、社会との関わりなどを論じあうシンポジウム「直島会議」を再開し、第一回は直島新美術館のパブリック・プログラムとして開催します。
記念すべき再開後の第一回は「**《マルコ・ポーロの忘れ物》から直島新美術館へ－アジア現代アートと 1995－2025**」というタイトルのもと、**2025 年 9 月 7 日（日）**に開催します。

今から 30 年前の 1995 年、ベネッセは社名変更に際し、その名称と離島でのアート活動を広く世界に知らせるべく、世界で最も重要な現代アートの祭典の場であるヴェネツィア・ビエンナーレにて展覧会を開催しました（注：「トランスカルチャー展」国際交流基金と福武学術文化振興財団の共催）。《マルコ・ポーロの忘れ物》とは同展のために、アーティストの蔡國強が制作展示した、かつて多くの文物を西欧にもたらしたマルコ・ポーロが持ち帰らなかったものとして、天と人の秩序を示す東洋の宇宙観や生命観をヴェネツィアに届けるプロジェクトで、同展に併せて設立された第一回ベネッセ賞を受賞しました。
第一回となる本会議では、当時よりアジアの現代アートシーンの発展に深く携わってきた専門家を迎え、「離島から世界に発信する」というベネッセアートサイト直島の方向性の原点であり、それまで

【本リリースに関するプレス問合わせ先】 取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。
公益財団法人 福武財団　広報担当
〒761-3110　香川県香川郡直島町 2249-7　Tel. 087-892-2550　Fax.087-892-2011
E-mail　press@fukutake-artmuseum.jp https://benesse-artsite.jp/

欧米が中心だった現代アートシーンにおけるアジアを含む非西洋圏のアートの台頭を象徴的に表すことになった同展および本作を起点に、登壇者それぞれの体験を通して、その変遷を振り返るとともに、国際的視座から直島新美術館発足の背景と今後の可能性などを探ります。

直島新美術館パブリック・プログラム
直島会議 2025
《マルコ・ポーロの忘れ物》から直島新美術館へ－アジア現代アートと 1995－2025

日時：2025 年 9 月 7 日（日）　13:30 開始（開場 13:00）―15:30 終了（予定）
会場：ベネッセハウス パークホール（ベネッセハウス パークへお越しください）
登壇者：アピナン・ポーサヤーナン（バンコク・アート・ビエンナーレ最高責任者兼芸術監督）、
スハーニャ・ラフェル（M＋館長）、
三木あき子（直島新美術館館長/ベネッセアートサイト直島インターナショナルアーティスティックディレクター）
モデレーター：帆足亜紀（横浜美術館国際グループ兼学芸グループ グループ長、横浜トリエンナーレ組織委員会総ディレクター補佐）
料金：無料（直島新美術館またはベネッセハウス ミュージアムの当日または前日の鑑賞チケットが必要です）
言語：日英同時通訳
申込方法：右記の QR コードからお申込みください。
共催：直島新美術館（公益財団法人 福武財団）、株式会社ベネッセホールディングス
問い合わせ先： info-newmuseum@fukutake-artmuseum.jp

プログラム（予定）
イントロダクション：三木あき子
《マルコ・ポーロの忘れ物》蔡國強からのビデオメッセージ
プレゼンテーション１：　アピナン・ポーサヤーナン
プレゼンテーション２：　スハーニャ・ラフェル
帆足亜紀モデレーターによるディスカッション

■登壇者プロフィール

アピナン・ポーサヤーナン（バンコク・アート・ビエンナーレ最高責任者兼芸術監督）
タイ文化省「現代美術と文化」事務局長、文化振興部局長、常任秘書。タイのアーティストのためのシルパトーン賞とアートファンドを創設。ヴェネツィア・ビエンナーレ（2003、2005、2007 年）のタイ館、アジア・パシフィック・トリエンナーレ（1993、1996 年）などの国際展など多くの企画を手掛ける。ソロモン・R・グッゲンハイム美術館、ナショナル・ギャラリー・シンガポールの委員会メンバーを歴任。タイ・ビバレッジ株式会社のアドバイザー、ワン・バンコクの芸術文化委員会のメンバーも務める。

スハーニャ・ラフェル（M＋館長）
オーストラリアのニュー・サウス・ウェールズ州立美術館で副館長兼コレクション担当ディレクター（2013-2016 年）、クイーンズランド州立美術館 /近代美術館では館長代理などを歴任（1994-2013 年）。 アジア太平洋地域の現代美術コレクションの構築に尽力し、2002 年よりアジア・パシフィック・トリエンナーレを主導。国際美術館会議（CIMAM）で 2016 年から理事、2023 年より会長に就任。

【本リリースに関するプレス問合わせ先】 取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。
公益財団法人 福武財団　広報担当
〒761-3110　香川県香川郡直島町 2249-7　Tel. 087-892-2550　Fax.087-892-2011
E-mail　press@fukutake-artmuseum.jp https://benesse-artsite.jp/

三木あき子（直島新美術館館長/ベネッセアートサイト直島インターナショナルアーティスティックディレクター）
パレ・ド・トーキョー（パリ）チーフ＆シニア・キュレーター（2000-2014 年）、ヨコハマトリエンナーレ（2011 年 アーティスティックディレクター、2017 年コ・ディレクター）等を歴任。台北ビエンナーレ（1998 年）、バンコク・アート・ビエンナーレ（2024 年）等の国際展や、バービカン・アート・ギャラリー（ロンドン）、台北市立美術館、韓国国立現代美術館、森美術館、横浜美術館、京都市京セラ美術館等世界各地の主要美術館にて多くの企画を手掛ける。

モデレーター
帆足亜紀（横浜美術館国際グループ兼学芸グループ グループ長、横浜トリエンナーレ組織委員会総合ディレクター補佐）
シティ大学（ロンドン）にて博物館・美術館運営修士号取得後、1996 年よりフリーのコーディネーターとして、国際交流基金のアジア地域の美術交流事（1997-2010 年）や茨城県のアーティスト・イン・レジデンスの運営（2003-2007 年）などに携わる。2010 年より横浜トリエンナーレ組織委員会事務局に入り、第 4 回（2011 年）以降の横浜トリエンナーレに携わる。2016 年より横浜美術館所属となり、現在に至る。

■直島会議とは

直島会議とは、1992 年から 2004 年まで、直島という場で美術や建築と社会との関わりを考えるシンポジウムとして、徐々に方向性を定めながら 7 回にわたり開催されました。「電子情報化社会の環境と芸術のあり方」「アートはコミュニティに投げかける」など、時代に応じて幅広いテーマを扱いながら、直島での活動の意義を深め、発信してきました。

■蔡國強《マルコ・ポーロの忘れ物》1995 について

直島新美術館にて、大規模なインスタレーションを展開する蔡國強の初の国際的舞台での展示となった記念すべき作品で、アジアから多くの文物を西洋にもたらしたマルコ・ポーロが、持ち帰らなかったもの－東洋の宇宙観や生命観をヴェネツィアに届けるという考えのもと、マルコ・ポーロが西洋へ帰還する際の出発地とされる中国・泉州から古い木製の帆船をヴェネツィアに運びこみ、漢方薬や鍼治療をモチーフとした展示を行いました。

蔡國強《マルコ・ポーロの忘れ物》1995 年　写真：山本糾

■直島新美術館の今後予定しているパブリック・プログラム

［**Meditation: The Sound of Naoshima**］
展示作家サニタス・プラディッタスニーの作品にちなんだ瞑想体験プログラムは、8 月は直島島民限定の体験会として、
以下の日程で開催します。
8 月 20 日（水）、31 日（日）①9:50-10:30、②16:50-17:30
秋以降は定期開催を予定しています。

［**ギャラリーツアー**］
9 月以降、定期開催を予定しています。
※瀬戸内国際芸術祭会期（10 月 3 日～11 月 9 日）を除く

［**ワークショップ**］
7 月に実施した子供向けワークショップに続き、今後は季節ごとにワークショップを予定しています。

▶詳細は決定次第、ベネッセアートサイト直島公式ウェブサイトの「お知らせ」で随時更新します。
https://benesse-artsite.jp

【本リリースに関するプレス問合わせ先】 取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。
公益財団法人 福武財団　広報担当
〒761-3110　香川県香川郡直島町 2249-7　Tel. 087-892-2550　Fax.087-892-2011
E-mail　press@fukutake-artmuseum.jp https://benesse-artsite.jp/

施設基本情報

撮影：GION

名称：直島新美術館
住所：香川県香川郡直島町 3299-73
開館時間：10:00 ～ 16:30（ 最終入館 16:00 ）
休館日：月曜日（ただし、祝日の場合開館、翌日休館）
※不定休あり。ベネッセアートサイト直島ウェブサイト開館カレンダーにて随時更新。
鑑賞料金：オンライン購入（日にち指定） 1,500 円／窓口購入 1,700 円／15 歳以下無料
※瀬戸内国際芸術祭 作品鑑賞パスポート対象施設
駐車場：一般車両（20 台）、自転車（15 台程度） いずれも無料
施設 URL：https://benesse-artsite.jp/art/nnmoa.html
一般問合わせ先：info-newmuseum@fukutake-artmuseum.jp
チケット販売：ベネッセアートサイト直島　美術館予約サイトにて
https://benesse-artsite.jp/general-information.html

【本リリースに関するプレス問合わせ先】 取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。
公益財団法人 福武財団　広報担当
〒761-3110　香川県香川郡直島町 2249-7　Tel. 087-892-2550　Fax.087-892-2011
E-mail　press@fukutake-artmuseum.jp https://benesse-artsite.jp/